



街路樹



社会科の授業改善の視点と実践例紹介

子どもたちの幸せを願って(教育相談室)

小学校において新学習指導要領による教育実践が始まって半年、社会科の授業改善の取り組み状況はいかでしょうか。授業改善で特に苦労すると思われるのが、3・4学年ではないでしょうか。3学年では「身近な地域・市の学習」、4学年では「県の学習」と明確に分けられ、学校の実態に応じて地域の教材化を考え、取り組まなければなりません。今回は、新学習指導要領の授業改善の視点を踏まえて、3・4学年の学習に焦点をあててお伝えします。

3学年では、市の学習単元での指導改善が大切です。第1単元「市の様子」では、現在の市の様子について学びます。そして、第4単元「市の移りかわり」では、過去の市の様子を見て未来を描く学習を行います。つまり、第1単元と第4単元を関連付けることが重要です。新単元「市の移りかわり」は、どのような教材が必要かを考え、資料を集めておくことが必須です。

第1単元で作った白地図(学習の足あと)を、第4単元で活用するなど、関連付ける。

- 第3学年
- (1)身近な地域や市の様子
 - ・学校の周りの様子
 - ・市の様子※市役所へ政治の働きへの関心を高める
 - (2)地域に見られる生産や販売の仕事
 - ・生産の仕事
 - ・販売の仕事
 - (3)地域の安全を守る働き
 - ・火災から守る政治の働きへの関心を高める人口減少や地域の活性化
 - ・事故などから守る
 - (4)市の様子の移り変わり (元号、少子高齢化・国際化等)

4学年では、県の学習であることをしっかり意識し、指導改善を行うことが大切です。特に「県内の伝統や文化、先人の働き」「県内の特色ある地域」の単元では、県内を代表するような文化財・年中行事は何か、県内の特色ある地域(地場産業が盛んな地域、伝統文化または自然環境の保護・活用している地域、国際交流に取り組んでいる地域)はどこかを考え、どの地域素材を教材化するのかを検討することが必須です。それぞれの学習を積み重ね、県全体をおおまかに捉えられるようにすることが求められます。

※参考「初等教育資料5月号」2020.5 文部科学省

すこやか教育相談(電話相談)や子ども健康相談(面接相談)には、毎日、様々な悩みや困りごとの相談があります。特に今まで頑張ってきた子どもたちの中には、勉強や対人関係、進路への不安、家庭環境の変化や生活リズムの乱れによる不調などを抱えていて、心のケアが必要になっていることを強く感じます。

教育相談室では、相談と支援の一体化を目指し、相談員の面接後、保護者や学校と共通理解を図りながら、必要に応じて、次のような支援につなげています。

- 臨床心理士によるカウンセリング
- 専門医による面接相談
- 専門家による発達心理検査の実施と検査結果の説明
- 医療創生大心理センターでのカウンセリング
- スクールソーシャルワーカー(SSW)による支援
- 適応指導教室(いわきチャレンジホーム)の情報提供
- ソーシャルスキルトレーニング(SST)やペアレントトレーニング(PT)の実施

支援を通して、一人ひとりの心に寄り添いながら、保護者や先生方と共に「どうすれば、子ども自身が持っているよさや能力を見出し、伸ばしていくことができるか。」「どうすれば、自信をつけさせ、自尊感情を高めることができるか。」を考えています。どの子どもたちも健やかに成長して欲しいとの思いでチームで支援に取り組んでいます。

子どもたちの「しあわせ」を願ってこの歌をみなさんへ

私が生まれてきた訳は、父と母に出会うため
 私が生まれてきた訳は、きょうだいたちに出会うため
 私が生まれてきた訳は、友達みんなに出会うため
 私が生まれてきた訳は、愛しいあなたに出会うため
 春くれば花自ら咲くように 秋くれば葉は自ら散るように
 しあわせになるために 誰もが生まれてきたんだよ
 悲しみの花の後からは 喜びの実が実るように



さだまさし「いのちの理由」

管理職研修 第2回教頭実務研修より



今年度の教頭実務研修は2回予定していましたが、コロナ禍の影響で第1回(新任教頭・管外からの転入教頭対象)の研修は中止(紙上研修)となりました。第2回は8月5日に行われ、「教職員の資質・能力の向上とメンタルヘルス」「学校安全における防災体制・防災管理について」の講義・演習を実施しました。

「教職員の資質・能力の向上とメンタルヘルス」では、「教職員の資質・能力の向上」と「本市の方向性と今後の取組み」「不祥事防止」の3点から講義があり、これからの教職員に求められる資質・能力、市の情報化推進計画についての説明や不祥事防止のための演習などが行われました。

「学校安全における防災体制・防災管理について」では、福島大学うつくしまふくしま未来支援センター特任教授としてご活躍されている天野和彦先生を講師に招き、これからの学校の防災体制や地域における学校の役割について、天野先生の豊富なご経験をもとにご講義をいただきました。大川小学校の津波訴訟やイタリアの避難所、国内での避難所運営の様子などを通して、防災の在り方・考え方について改めて見直す機会となりました。講義の中で天野先生が強調されていたことは、ふだん準備している以上のことはできないこと、「目的防災」から「結果防災」へ転換すること、災害に強い地域づくりのために地域防災に学校も積極的に関わっていくことなどでした。

児童生徒の命を守ることは学校の最大の責務です。そのために必要なことは何か、やるべきこと・やれることは何かを常に問いかけ、学校が児童生徒及び地域の安全安心の砦となるように、自覚と責任をもって日々の教育活動を見直していきたいものです。